

<マニュアル訂正連絡票>

ASP NAS バックアップオプション説明書 V27

[J2K0-5221-01G2]

2020年12月22日発行

修正箇所(章節項):付録 B CIFS エラーコード 付表 B.1 CIFS エラーコード

旧記事

付表 B.1 CIFS エラーコード

CIFS エラーコード	意味
00000080	コンピュータ名に誤りがある
00000082	コンピュータ名に誤りがある
80000006	総称名(*)指定でファイルが存在しない
C000000F	ファイルが存在しない
C0000022	アクセス権がない
C0000033	パス名が無効である
C0000034	パスがディレクトリではない
C0000035	すでにディレクトリが存在する 同名のファイルが存在する
C000003A	パスが存在しない
C0000043	排他使用中である
C000005E	ドメインサーバ (ログオンサーバ) が見つからない
C0000064	ユーザ名に誤りがある
C000006A	パスワードに誤りがある
C000006D	Windows ドメイン名または Windows ユーザ名に誤りがある
C000006F	ドメインサーバ (ログオンサーバ) でログオンが許可されていない時間帯である
C0000070	ドメインサーバ (ログオンサーバ) でログオンが許可されていないクライアントである
C0000071	パスワードの有効期限が切れている
C0000072	ユーザ名が無効状態となっている
C000007F	ディスクの容量が不足している
C00000BA	ファイル名と同名のディレクトリが存在する
C00000BD	コンピュータ名に誤りがある
C00000CC	共有名に誤りがある
C0000101	資源が存在する
C0000103	パスがディレクトリではない
C0000121	削除できない
C0000193	ユーザ名の有効期限が切れている
C0000224	“ユーザは次回ログオン時にパスワード変更が必要”として作成されたユーザ名でログオンした。Windows からログオンし、パスワードを変更する必要がある
C0000234	ユーザ名がロック状態となっている

付表 B.1 CIFS エラーコード

CIFS エラーコード	意味
0000080	コンピュータ名に誤りがある
0000082	コンピュータ名に誤りがある
8000006	総称名(*)指定でファイルが存在しない
C000001	処理に失敗した
C00000F	ファイルが存在しない
C000022	アクセス権がない
C000033	パス名が無効である
C000034	パスがディレクトリではない
C000035	すでにディレクトリが存在する 同名のファイルが存在する
C00003A	パスが存在しない
C000043	排他使用中である
C000056	ファイルが削除処理中である
C00005E	ドメインサーバ (ログオンサーバ) が見つからない
C000064	ユーザ名に誤りがある
C00006A	パスワードに誤りがある
C00006D	Windows ドメイン名または Windows ユーザ名に誤りがある
C00006F	ドメインサーバ (ログオンサーバ) でログオンが許可されていない時間帯である
C000070	ドメインサーバ (ログオンサーバ) でログオンが許可されていないクライアントである
C000071	パスワードの有効期限が切れている
C000072	ユーザ名が無効状態となっている
C00007F	ディスクの容量が不足している
C0000BA	ファイル名と同名のディレクトリが存在する
C0000BD	コンピュータ名に誤りがある
C0000CC	共有名に誤りがある
C000101	資源が存在する
C000103	パスがディレクトリではない
C000121	削除できない
C000193	ユーザ名の有効期限が切れている
C000224	“ユーザは次回ログオン時にパスワード変更が必要”として作成されたユーザ名でログオンした。Windows からログオンし、パスワードを変更する必要がある
C000234	ユーザ名がロック状態となっている

2017年8月30日発行

修正箇所(章節項): 3.6.3 UXF 環境

■UX サイズ

・SAVTMBRN / RSTTMBRN の場合

UX サイズ = 3000 (KB) + (0.8 (KB) × ファイル数(注1))
--

・DLTNMBR / CRTNDIR / DLTNDIR / DSPNDIR の場合

$$\text{UX サイズ} = 3000 \text{ (KB)} \\ + (0.3 \text{ (KB)} \times \text{ファイル数(注 2)})$$

注 1)

コマンドを同時に複数実行する場合は、上記の値に同時実行数を掛けた値が必要メモリ数となる。

注 2)

退避または復元するファイルの総数である。

注 3)

DLTNMBR または DLTNDIR の場合、削除するファイルの総数である。

CRTNDIR の場合、0 である。

DSPNDIR の場合、表示するファイルの総数である。

■UX スワップ域

・SAVTMBRN / RSTTMBRN / DLTMBRN / CRTNDIR / DLTNDIR / DSPNDIR の場合

$$\text{UX スワップ域} = 7000 \text{ (KB)} \\ + (11 \text{ (KB)} \times \text{最大階層数(注 1)} \\ + (0.3 \text{ (KB)} \times \text{ファイル数(注 2)})$$

注 1)

コマンドを同時に複数実行する場合は、上記の値に同時実行数を掛けた値が必要メモリ数となる。

注 2)

SAVTMBRN または RSTTMBRN で PATH パラメタにディレクトリを指定した場合、指定したディレクトリからの階層の深さである。

SAVTMBRN または RSTTMBRN で PATH パラメタにファイルを指定した場合、1 である。

DLTNDIR の場合、PATH パラメタで指定したディレクトリからの階層の深さである。

DLTNMBR または CRTNDIR または DSPNDIR の場合、1 である。

注 3)

SAVTMBRN または RSTTMBRN の場合、退避または復元するファイルの総数である。

DLTNMBR または DLTNDIR の場合、削除するファイルの総数である。

CRTNDIR の場合、0 である。

DSPNDIR の場合、表示するファイルの総数である。

新 記 事

■UX サイズ

・SAVTMBRN / RSTTMBRN の場合

$$\text{UX サイズ} = (3,000\text{KB} \\ + (0.8\text{KB} \times \text{ファイル数(注 1)})) \times \text{同時使用ジョブ数}$$

・DLTNMBR / CRTNDIR / DLTNDIR / DSPNDIR の場合

$$\text{UX サイズ} = (3,000\text{KB} \\ + (0.3\text{KB} \times \text{ファイル数(注 2)})) \times \text{同時使用ジョブ数}$$

注 1)

退避または復元するファイルの総数である。

注 2)

削除または表示するファイルの総数である。ただし、CRTNDIR コマンドの場合は 0 とする。

■UX スワップ域

$$\text{UX スワップ域} = (7,000\text{KB} \\ + (11\text{KB} \times \text{最大階層数(注 1)}) \\ + (0.3\text{KB} \times \text{ファイル数(注 2)})) \times \text{同時使用ジョブ数}$$

注 1)

SAVTMBRN, RSTTMBRN コマンドで、PATH パラメタにディレクトリを指定した場合、指定したディレクトリからの階層の深さである。PATH パラメタにファイルを指定した場合は 1 とする。

DLTNDIR コマンドの場合、PATH パラメタで指定したディレクトリからの階層の深さである。
DLTNMBR、CRTNDIR、DSPNDIR コマンドの場合は 1 とする。

注 2)

SAVTMBR、RSTTMBRN、DLTNMBR、DLTNDIR、DSPNDIR コマンドの場合、対象のファイルの総数である。
CRTNDIR コマンドの場合は 0 とする。

2015 年 12 月 22 日発行

修正箇所(章節項): 第 4 章 運用 4.4 運用に関する注意事項

旧 記事

(6)使用できない文字コードについて

ASP と NAS 装置では文字コードが違うため、使用できない文字が存在する。
退避または復元する資源のパスに、使用できない文字が含まれていた場合、以下のエラーが表示される。

「S5057 NAS バックアップ機能でエラーが発生した」

メッセージの補足情報に、変換に失敗した文字とパスの情報が提示されるので、該当する文字を他の文字に変更し、再度退避または復元処理を実行する必要がある。

(7)ファイル名について

NAS 装置は、ファイル名およびディレクトリ名について、英大文字と英小文字を区別しない。

このため、ASP のディレクトリ内に、英大文字/英小文字の違いがあるだけの同名ファイルまたはディレクトリを作成してはならない。

このようなエンティティが格納されたディレクトリを NAS 装置に退避した場合、同名のエンティティのうち、先に退避したエンティティが後から退避したエンティティで上書きされる。

(8)インターネットでの使用について

NAS バックアップオプションはインターネットに対応していない。

インターネット環境で利用する場合、必ず VPN を使用する必要がある。使用する VPN は、通信品質の面から IP-VPN を推奨する。

新 記事

(6)使用時に注意すべき文字について

NAS 装置は、UNICODE(UTF-8)の文字コードを使用している。

このため、NAS 装置の共有に以下の文字を使用する場合、NAS バックアップオプションの運用コマンドを実行する前に、コマンド入力画面の文字コードを EBCDIC(ASCII)に変更しておく必要がある。

[] \$! ^ ~ \ (半角)

なお、EBCDIC(カナ)や EBCDIC(英小文字)の状態では運用コマンドを実行すると、共有名に誤りがあると判断され、以下のメッセージが表示される。

「S5057 NAS バックアップ機能でエラーが発生した 1051,C00000CC, 共有名」

(7)使用できない文字コードについて

ASP と NAS 装置では文字コードが違うため、使用できない文字が存在する。

退避または復元する資源のパスに、使用できない文字が含まれていた場合、以下のエラーが表示される。

「S5057 NAS バックアップ機能でエラーが発生した」

メッセージの補足情報に、変換に失敗した文字とパスの情報が提示されるので、該当する文字を他の文字に変更し、再度退避または復元処理を実行する必要がある。

(8)ファイル名について

NAS 装置は、ファイル名およびディレクトリ名について、英大文字と英小文字を区別しない。

このため、ASP のディレクトリ内に、英大文字/英小文字の違いがあるだけの同名ファイルまたはディレクトリを作成してはならない。

このようなエンティティが格納されたディレクトリを NAS 装置に退避した場合、同名のエンティティのうち、先に退避したエンティティが後から退避したエンティティで上書きされる。

(9)インターネットでの使用について

NAS バックアップオプションはインターネットに対応していない。

インターネット環境で利用する場合、必ず VPN を使用する必要がある。使用する VPN は、通信品質の面から IP-VPN を推奨する。

2014 年 6 月 23 日発行

修正箇所(章節項): 第 3 章 環境設定 3.6.5 環境定義ファイル

旧記事

(2)作成方法

環境定義ファイルは、システム管理者が Windows 環境でテキストエディタを用いて作成する。ファイル名は“nasc.conf”とする。作成したファイルを、PC ファイルサーバ機能などを用いて、ASP(拡張多階層ライブラリ)上の以下のディレクトリに移入する。

```
/var/nasc/conf/
```

上記ディレクトリは、事前に作成しておく必要がある。

ディレクトリの作成については、“[3.6.4 ディレクトリ環境](#)”を参照されたい。

なお、環境定義ファイルの雛型が“/smpl/nc”配下に“nasc.conf”というファイル名で格納されているので、PC ファイルサーバ機能などを用いて Windows 環境に取り出して使用されたい。

新記事

(2)作成方法

環境定義ファイルは、システム管理者が Windows 環境でテキストエディタを用いて作成する。ファイル名は“nasc.conf”とする。作成したファイルを、PC ファイルサーバ機能などを用いて、ASP(拡張多階層ライブラリ)上の以下のディレクトリに移入する。

```
/var/nasc/conf/
```

上記ディレクトリは、事前に作成しておく必要がある。

ディレクトリの作成については、“[3.6.4 ディレクトリ環境](#)”を参照されたい。

“[5.2 運用系コマンド](#)”の各コマンドは、コマンド実行時に“/var/nasc/conf/nasc.conf”の内容を読み込んで動作する。

なお、環境定義ファイルの雛型が“/smpl/nc”配下に“nasc.conf”というファイル名で格納されているので、PC ファイルサーバ機能などを用いて Windows 環境に取り出して使用されたい。